

介護職員初任者研修カリキュラム

1 職務の理解 (6 時間)		
○到達目標・評価の基準		
研修に先立ち、これから介護を目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスの理解	2 時間	【講義】 ・介護職が働くサービス現場にどのようなものがあるか、介護保険サービス(居宅・施設)とそれ以外(障害者(児)サービス等)について理解する。
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	4 時間	【講義】 ・多様な居宅、施設サービス現場におけるそれぞれの仕事内容を理解する。講師による講義の他、様々な働く現場について視聴覚教材を活用して理解を深める。 ・ケアプランに始まるサービス提供にいたるまでの一連の流れ、チームアプローチ、他職種との連携、地域社会資源との連携等、介護サービスの提供についてイメージを持たせる。
合計	6 時間	

2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9 時間)		
○到達目標・評価の基準		
介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。		
・介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。		
・虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①人権と尊厳を支える介護	5 時間	【講義】 ・人権と尊厳の保持について、具体的な事例を示しながら理解を深める。 ・ICFについて、具体的な事例を示しながら障害の概念と、介護におけるICFの活用について理解を深める。 ・QOL、ノーマライゼーションについて、基本的な考え方を理解出来るよう、具体的な事例を示しながら利用者ケアのイメージを持たせる。 ・高齢者、障害者の個人の権利を守る制度について、理解を深める。 【演習】 ・虐待、身体拘束について、視聴覚教材の活用と具体的な事例を示しながら理解を深め、虐待、身体拘束をしない介護の在り方について、グループワークを行いより理解を深める。
②自立に向けた介護	4 時間	【講義】 ・自立支援・介護予防について、具体的な事例を示しながら基本的知識の習得と理解を深める。 【演習】 ・検討事例を示し、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアについて各自で検討し、ワークシートを作成。講師が講評する。
合計	9 時間	

3 介護の基本 (6 時間)

○到達目標・評価の基準

介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。

- ・介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。
- ・介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。
- ・介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。
- ・生活支援の場で出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2 時間	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・介護環境の特徴について、訪問介護と施設介護サービスの違い、地域包括ケアのしくみと視点、介護従事者の役割について理解を深める ・介護の専門性について、介護の考え方（利用者主体の支援姿勢、自立支援、根拠ある介護、チームケアの重要性、多職種からなるチーム）について、具体的な事例の提示や視聴覚教材を活用しながら理解を深める。 ・介護に関わる職種について、多職種連携・チームケア・チームアプローチの必要性、福祉・保健医療専門職の機能と役割を、具体的な事例を示しながら、ケア者としての在り方についてイメージを持たせる。
②介護職の職業倫理	1 時間	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・介護職としての倫理観の必要性について、具体的な事例を示しながら理解を深める。 【演習】 <ul style="list-style-type: none"> ・ケアする際に必要な倫理的判断の視点について、事例を示しグループワークにて検討・意見交換を行い理解を深める。倫理的問題に気づけるよう促す。
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	2 時間	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・介護におけるリスクマネジメントについて、基本的な考え方や実際に起き得る介護事故と労災事故の事例を示しながら理解を深める。 ・事故予防と安全対策について、それらの概念を理解し、介護現場における取り組み方を事例をもとに理解を深める。 ・感染対策について、感染原因と経路、介護現場における主な感染症と感染症対策に対する介護者の基本的態度等を、視聴覚教材を活用しながら理解を深める。予防についての基礎知識の習得。
④介護職の安全	1 時間	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職の心身の健康管理について、ストレスマネジメント・腰痛予防・感染症対策・手洗いの基本を資料をもとに解説し理解を深める。また、介護職の健康管理が介護の質に影響を及ぼすということがイメージ出来るよう指導する。
合計	6 時間	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9 時間)

○到達目標・評価の基準

介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。

- ・生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。
- ・介護保険制度や障害者総合支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる。
例：税が財源の半分であること、利用者負担割合
- ・ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。
- ・高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。
- ・医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士制度等が行う医行為などについて列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護保険制度	3 時間	【講義】 ・介護保険制度について、そのしくみを理解する。(介護保険制度創設の背景及び目的、動向(ケアマネジメント、予防重視型システムへの転換、地域包括支援センターの設置、地域包括ケアシステムの推進))・仕組みの基礎的理解(保険制度としての基本的仕組み、介護給付と種類、予防給付、要介護認定の手順)・制度を支える財源、組織・団体の機能と役割
②医療との連携と リハビリテーション	3 時間	【講義】 ・医行為について、その考え方と業務の内容について理解する。(介護職の業務、医行為の考え方、介護職が行える医行為、) ・訪問看護と介護の連携について、さまざまなサービスや多職種や関係機関との連携について理解する。 ・リハビリテーションについて、理念・過程・専門職の役割を理解する。
③障害者総合支援制度および その他制度	3 時間	【講義】 ・障害者福祉制度の理念について、具体的な事例を示しながら理解を深める。(障害の概念、ICF(国際生活機能分類)) ・障害者総合支援制度について、そのしくみを理解する。(介護給付・訓練等給付の申請から支給決定までの流れ) ・個人の権利を守る制度について、具体的な事例を示しながら理解を深める。(個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援制度)
合計	9 時間	

5 介護におけるコミュニケーション技術 (6時間)

○到達目標・評価の基準

高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。

- ・共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。
- ・家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつべき視点を列挙できる。
- ・言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。
- ・記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護における コミュニケーション	3時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護におけるコミュニケーションについて、意義・目的・役割を理解する。 ・コミュニケーション技法と道具を用いた言語的コミュニケーションについて、その方法を具体的な事例を示しながら理解を深める。 ・利用者、家族とのコミュニケーションについて、実際の関わり方を理解する。 ・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術について、実際の関わり方を理解をする。（視力、聴力の障害に応じた技術、失語症に応じた技術、構音障害に応じた技術、認知症に応じた技術） <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなコミュニケーション技法について、グループワークやワークシートの作成により体験し、理解を深める。
②介護における チームコミュニケーション	3時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録による情報の共有化について理解を深める。（介護における記録の意義・目的、利用者観察の視点と記録の書き方、記録の種類、介護計画書、事故報告とヒヤリハット） ・介護サービスにおける報告・連絡・相談について、その意義・目的、留意点を理解する。 ・コミュニケーションを促す環境について、具体的な事例を示しながら理解を深める。（情報共有の場、サービス担当者会議、ケアカンファレンスの重要性） <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録の必要性について、具体的な事例を示しグループワークにて検討・意見交換を行い、理解を深める。
合計	6時間	

6 老化の理解 (6 時間)

○到達目標・評価の基準

加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。

- ・加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。

例：退職による社会的立場の喪失感、運動機能の低下による無力感や羞恥心、感覚機能の低下によるストレスや疎外感、知的機能の低下による意欲の低下等

- ・高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。

例：脳梗塞の場合、突発的に症状が起こり、急速に意識障害、片麻痺、半側感覚障害等を生じる等

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3 時間	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴について、老化のメカニズムや特徴、こころとからだの変化と観察のポイントを理解する。 ・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響について、具体的な事例を示しながら理解を深める。
②高齢者と健康	3 時間	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点について、具体的な事例を示しながら理解を深める。(循環器障害、老年期うつ病、誤嚥性肺炎、生活習慣病、廃用症候群など)
合計	6 時間	

7 認知症の理解 (6時間)

○到達目標・評価の基準

介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。

- ・認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。
- ・健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。
- ・認知症の中核症状と行動・心理症状（B P S D）等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。
- ・認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、および介護の原則について列挙できる。また、同様に、若年性認知症の特徴についても列挙できる。
- ・認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。
- ・認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。

例：生活習慣や生活様式の継続、なじみの人間関係やなじみの空間、プライバシーの確保と団らんの場の確保等、地域を含めて生活環境とすること。

- ・認知症の利用者とのコミュニケーション（言語、非言語）の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方（良い関わり方、悪い関わり方）を概説できる。
- ・家族の気持ちや、家族を受けやすいストレスについて列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①認知症を取り巻く状況	1時間	【講義】 ・認知症ケアの理念について、パーソンセンタードケアの考え方とできることに着目する認知症ケアの視点の理解を事例を示し深める。
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2時間	【講義】 ・認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理について理解する。（もの忘れとの違い、脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア、薬物療法など）
③認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	2時間	【講義】 ・認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴について、具体的な事例を示しながら理解を深める。（中核症状とB P S D、不適切なケア） ・認知症利用者への対応について、具体的な事例を示しかつ視聴覚教材を活用しながら、認知症高齢者が地域の中でその人らしく生活できるための支援が具体的にイメージできるようにする。
④家族への支援	1時間	【講義】 ・家族への支援について、家族の介護負担やレスパイトケアの必要性と支援方法を、具体的な事例を示しながら理解を深める。
合計	6時間	

8 障害の理解 (3時間)

○到達目標・評価の基準

障害の概念と ICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。

- ・障害の概念と ICF について概説でき、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。
- ・障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①障害の基礎的理解	1時間	【講義】 ・障害の概念と ICF の考え方について、具体的な事例を示しながら理解を深める。
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1時間	【講義】 ・身体障害について、介護における留意点と障害の受容過程を理解する。(視覚障害、聴覚・平衡機能障害、音声・言語・咀嚼機能障害、肢体不自由、内部障害) ・知的障害について、定義や知的障害者福祉法を理解する。 ・精神障害について、種類と介護における留意点を理解する。(統合失調症、気分障害、アルコール依存症、高次脳機能障害、発達障害)
③家族の心理、かかわり支援の理解	1時間	【講義】 ・家族への支援について、障害者(児)家族の心理、障害受容における支援の関わり方、介護負担の軽減の方法を理解する。
合計	3時間	

9 こころとからだのしくみと生活支援技術 (75 時間)

○到達目標・評価の基準

介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。

- ・主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。
- ・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点、その根拠等）について概説でき、生活の中の介護予防、および介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。
- ・利用者の身体の状態に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。
- ・人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて概説できる。
- ・人体の構造や機能が列挙でき、何故行動が起こるのかを概説できる。
- ・家事援助の機能と基本原則について列挙できる。
- ・装うことや整容の意義について概説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。
- ・体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携（ボランティアを含む）について、列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
< I 基本知識の学習 >		
①介護の基本的な考え方	4 時間	【講義】 ・理論に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除）、法的根拠に基づく介護について、実際の介護サービスの事例を示しながら理解を深める。
②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4 時間	【講義】 ・学習と記憶の基礎知識、感情と意欲の基礎知識の習得。 ・自己概念と生きがい、老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、こころの持ち方が行動に与える影響、からだの状態がこころに与える影響について、事例（視聴覚教材）をもとに理解を深める。 【演習】 ・生きがいと老化や障害について、具体的な事例を示しグループワークにて検討・意見の共有により理解を深める。共感的理解の視点が持てるよう促す。

③介護に関するからだのしくみの 基礎的理解	4時間	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> からだのしくみに関する基礎知識の習得。(人体の各部の名称と動き、骨・関節・筋に関する知識、ボディメカニクスの活用、中枢神経系と体性神経に関する知識、自律神経と内部器官に関する知識) こころとからだを一体的に捉える、利用者の様子の普段との違いに気づく視点について、具体的な事例を示しながら理解を深める。 【演習】 <ul style="list-style-type: none"> 生命の徴候であるバイタルサインについて、測定方法を習得する。
< II 生活支援技術の学習 >		
④生活と家事	6時間	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識について、具体的な事例を示しながら理解を深める。 【演習】 <ul style="list-style-type: none"> ベットメイキングについて、状況に応じた方法を習得する。
⑤快適な居住環境整備と介護	3時間	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> 快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法について、具体的な事例を示しながら理解を深める。 【演習】 <ul style="list-style-type: none"> 快適かつ安全な居住環境について、具体的な事例を示しグループワークにて検討・意見交換をし、その関わりについて理解を深める。
⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> 整容に関する基礎知識(身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、身じたく、整容行動、洗面の意義・効果)について、具体的な事例を示しながら理解を深める。 【演習】 <ul style="list-style-type: none"> 衣服の着脱支援技術について、具体的な事例を示しながら技術の習得を図る。 整容の支援技術について、具体的な事例を示しながら技術の習得を図る。(洗面、整髪、爪の手入れ、口腔ケア、義歯)
⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	12時間	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> 移動・移乗に関する基礎知識(さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援)について、具体的な事例を示しながら理解を深める。 【演習】 <ul style="list-style-type: none"> 安楽な体位保持のための介助技術の習得を図る。 体位変換(水平移動・上部移動・側臥位・端座位から立位)の方法について、具体的な事例を示しながら介助技術の習得を図る。 車いす、杖歩行介助について、具体的な事例を示しながら介助技術の習得を図る。 上記介助において、利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法を学ぶ。
⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> 食事に関する基礎知識(食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援)について、具体的な事例を示しながら理解を深める。 【演習】 <ul style="list-style-type: none"> 食事介助について、具体的な事例を示しながら介助技術習得を図る。(セミファーラー位と座位の介助、全介助と一部介助の方法) 視覚障害者の食事介助技術の習得。

⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	【講義】 ・入浴、清潔保持に関連した基礎知識（さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法）について、具体的な事例を示しながら理解を深める。 【演習】 ・入浴介助について、具体的な事例を示しながら介助技術の習得を図る。 ・部分浴（手浴、足浴、陰部洗浄、洗髪）について、具体的な事例を示しながら介助技術の習得を図る。 ・清拭と整容について、具体的な事例を示しながら介助技術の習得を図る。
⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	【講義】 ・排泄に関する基礎知識（さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽やかな排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法）について、具体的な事例を示しながら理解を深める。 【演習】 ・トイレ介助の方法について、具体的な事例を示しながら介助技術の習得を図る。（ポータブルトイレ介助、オムツ交換、陰部洗浄、便器、尿器）
⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3時間	【講義】 ・睡眠に関する基礎知識（さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法）について、具体的な事例を示しながら理解を深める。 【演習】 ・睡眠について、具体的な事例を示し具体的な事例を示しグループワークにて検討・意見交換をし、その関わりについて理解を深める。
⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	3時間	【講義】 ・終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程（「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援）について、具体的な事例を示しながら理解を深める。 【演習】 ・ターミナルケアについて、具体的な事例を示しグループワークにて検討・意見交換をし、介護者としての関わりについて理解を深める。
＜Ⅲ 生活支援技術演習＞		
⑬介護過程の基礎的理解	6時間	【講義】 ・介護過程の目的・意義・展開、介護過程とチームアプローチについて、基礎的な知識の習得。 【演習】 ・介護過程の基本的な流れについて、具体的な事例を示しグループワークにて介護計画の作成を行い、介護者としての関わりについて理解を深める。
⑭総合生活支援技術演習	6時間	【演習】 ・生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。 ○事例の提示→ところとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題（1事例3時間程度で上のサイクルを実施する） ○事例は高齢（要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から2事例を選択して実施
合計	75時間	

10 振り返り (4時間)

○到達目標・評価の基準

研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①振り返り	3時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して学んだこと、今後継続して学ぶべきことの再確認。 ・視聴覚教材を活用して、「利用者の生活の拠点に共に居る」という視点に基づいて介護職の仕事内容や働く現場等について、具体的イメージを持たせる。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護課程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等）について、全研修を振り返りながらワークシートを作成、グループワークにおいて共有し要点の再確認をする。
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的に学ぶべきこと、研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージができるような事業所等における実例（OFF-JT、OJT）を紹介しながら、研修継続の必要性について理解を深める。
合計	4時間	
総時間数	130時間	